

卒業式は、基本的に「マスクなし」で

先日、新型コロナウイルス感染症への対策であった「マスク着用」に対する政府の新しい指針が示されました。3月13日（月）からは個人の判断に委ねるという内容ですが、卒業式についてはその考え方が前倒しで適用され、基本的にマスク着用は求められません。

この指針や新潟市教育委員会からの通知も踏まえ、大形中では次のように対応することを決め、生徒・保護者の皆さんにお知らせしました。

- 生徒・教職員については、式典全体を通じてマスクをはずすことを基本とする。ただし、これは強要することなく、個人の判断を尊重する。
- 来賓や保護者については、式典全体を通じてマスク着用とする。

大形中では、指針や通知が出される前から卒業式の在り方について検討を進めてきました。これまで、感染症対策と望ましい在り方での教育活動の確保の両面から、マスクの着用を含めて主体的に検討を重ね、判断・決定してきた大形中にとっては、何一つぶれることなく、より自信をもって力強く取組を進めていくという決意を新たにしたところです。



式練習に臨む3年生。真剣さが伝わる！

3年間のコロナ禍の期間によって、感染リスクが低いにもかかわらずマスクをはずすことのできない子どもが多くなっているという報道があります。自分は、この点について大きな心配を抱えています。一つは「正しく恐れる」という視点から、もう一つはマスクをはずして「ありのままの自分を見せることに不安を抱く生徒がいる」ことへの危機感からです。特に2点目については、現在の With コロナ時代、そしてこれからの Post コロナ時代を生きる私たちの生き方そのものに大きくかかわってくる問題だと思っているのです。

**「絶対に感染できない！」
→ 積極的にマスク着用を！**

高齢者やエッセンシャルワーカーなど、なんとしても感染を避けなければならない人が家族にいるために、一般の家庭よりも感度を高くしなければならない人もいます。これ以外の状況も含め、「自分は絶対に感染できない、感染してはいけない」という人は、マスクを着用することこそが「正しく恐れる」こととなるわけですね。

そのような場合は、他の生徒がマスクをはずしていたとしても、周りとの違いを気にすることなく、堂々とマスクを着用して式に臨んでください。

最後に…
新型コロナウイルスの感染防止対策を確実に！

↓

「正しく恐れる」
過度に恐れず、あなどらず

- ・毎日の検温や健康観察
- ・マスク着用、大声を控える、咳エチケット
- ・手洗い、アルコール手指消毒、常時換気
- ・ソーシャル・ディスタンス
- ・かぜ症状 → 学校に来ない

校長室の愉快的仲間たち

南米原産で、「チャコガエル」と言います。まだ子どもで、2cmくらいの大きさです。

見たい人は、いつでも校長室へどうぞ。待っています。



**「周りが気になってはずせない」
→ 全員で「安心」を生みだそう**

マスクがなくても自分を表に出せるための安心感は、当たり前のこととして保障されなければなりません。もし、その安心感が保障されていないとすれば、その原因はどこにあるのでしょうか。

人は、誰もが他の人とは違います。人それぞれによさや持ち味があります。ありのままの自分でいいのです。お互いに、相手のよさや自分との違いを受け入れながら、全員の「安心」をつくる努力を全員で行っていきましょう。一人一人の色が輝く卒業式に！

私が両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように、
地面を速くは走れない。
私からだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

「私と小鳥と鈴と」

金子みすゞ

令和5年2月20日

第29号